

## 板倉町が実施した防除対策

今年調査した町内の樹木（サクラ・ウメ・ハナモモ）1,277本のうち、692本にクビアカツヤカミキリの被害が確認され、そのうち、町で管理（地元行政区管理を含む）する583本のサクラの木に防除対策（樹幹注入）を実施しました。

板倉町では主に「樹幹注入」と「フラス孔注入」を採用し、防除対策を実施しています。

樹幹注入については、現在、最も効果的とされている樹幹注入剤を使用しました。

## 農薬を使用した防除方法

農薬を使用した防除には以下の方法があります。

**樹幹注入** 木の幹に穴をあけ、薬剤を注入する。薬剤は木に吸い上げられて木全体に拡がり、薬剤を含む部分を幼虫が食べることで駆除できる。

**フラス孔注入** 幼虫がフラスを排出している穴に薬剤を注入する。基本的に薬液が直接幼虫にかかることで駆除できる。（初期の場合）

**薬剤散布** 希釈した薬剤を噴霧器により散布する。主に木に付着した成虫を駆除するために行う。

## 防除対策



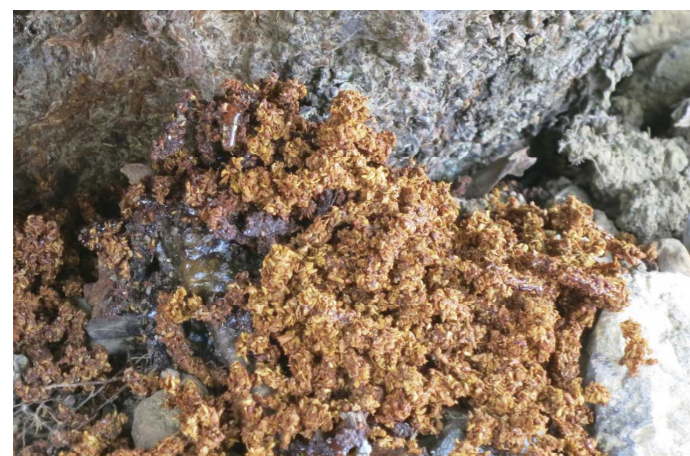
地際部（根と土の間）にドリルで穴を開ける



薬剤を注入



癒合剤により穴をふさいで完了



フラスが確認されたサクラの木

今後は、私有地を含めたより多くの樹木に防除対策を講じられるよう、制度の整備を検討したいと考えています。

また、邑楽館林地域クビアカツヤカミキリ対策協議会での伐倒事業や講習会を継続していくとともに、県とも協力しながら防除に努めていきます。被害拡大を防ぐためにも、引き続きクビアカツヤカミキリの駆除・情報提供にご協力ください。

問合せ 環境下水道係

☎82-6132

# サクラがあぶない

## クビアカツヤカミキリからサクラを守れ

### クビアカツヤカミキリ

この昆虫は、中国などを原産とする外来種です。幼虫がサクラやウメ、モモなどの木の中を食い荒らし、枯らしてしまいます。

果樹農業や桜並木などに大きな影響を与えるだけでなく、倒木などによる事故が発生する恐れもあります。その旺盛な繁殖力と拡散能力により、平成30年1月に「特定外来生物」に指定されました。

**体長** 約2〜4cm（触角除く）

**特徴** 全体的に光沢のある黒色で胸部（首部）が赤色

**生態** 幼虫は、樹木内部で2〜3年かけて成長し、6月〜8月頃に成虫となって樹木の外に現れます。寿命は2週間程度ですが、一匹の雌が1,000個以上産卵した例があります。

「特定外来生物」とは 外来生物のうち、生態系や農林水産業などに被害を及ぼすため、環境省が指定した生物です。法律により、飼育や生きたままの運搬・販売・野に放つことなどが禁止されています。違反すると、個人の

場合は最大で300万円の罰金もしくは3年以下の懲役が科されます。

クビアカツヤカミキリを見つけたときは、その場で捕殺し、環境下水道係にご連絡ください。

### 被害を受ける木

クビアカツヤカミキリの被害が確認されている木は、サクラ、ウメ、モモ（ハナモモ）、スモモ（プラム）、プルーン、桜桃（サクランボ）、アンズなどバラ科の木です。

幼虫は、春から秋にかけて木の内部を食い荒らし、木くずとフンが混ざったフラスが排出されます。フラスは、かりんとう状（細長くねじれた形）になり、木の幹や枝の間、根元にたまるので、見つけるための目印となります。



胸部（首部）が赤色